



あかね文庫お話しの会 おひさまだより



絵本アンケート

☀ (医療系 akiさん)

“子どもの好きな絵本”

①『あっちゃん あがつく』 あいうえお順に
おいしい食べ物を紹介している本です。

イラストや色合いがとてもキレイで、子どもと読み合わせをしながら思わず「わー、食べたい！ 今日のおやつはこれにしよう！」と食に対する話や、あいうえおをゴロに合わせて覚える機会となった、おいしそうな絵本です。

②『ねないこだれだ』 私が子どもの頃も読んだ絵本です。「ねない子はおばけにつれていかれるよ！」と、寝る前に子どもに読むのが恒例になっています。表紙のおばけのマネをよく家族でして追いかけてっこをしています。【⇒えほんの紹介】

☀ (医療系 ライムママさん) “思い出の絵本”

③『いやだいやだ』 娘が2歳の頃、自己主張が強くなり、成長したなと嬉しい反面手をやいていました。その時、姪がお古で娘にくれた絵本です。何冊か他にももらいましたが、特にこの本は思いをこめて読んでいました。あんなに小さい体や心で一生懸命自己主張していたことを、今ではとても懐かしく可愛く思い出しますが、当時は大変だった...と良い思い出の絵本です。【⇒えほんの紹介】



えほんの紹介

「ねないこだれだ」
「いやだいやだ」



せな けいこ／さく・え 福音館書店

子どもは少し大きくなると何にでも「いやだいやだ」の連発で、せいっぱい自己主張して大人を困らせます。それは子どもの成長の証しなのですが、初めての子育ての時は、ママもどうしてよいかオロオロしたり、対抗してカッとなったり...

そんな時に手にとって見てほしいのが『いやだいやだの絵本シリーズ』4冊です。他に『にんじん』『もじゃもじゃ』があります。子育てのたいへんさも絵本の中のお話として聞くと子どもも大人も、むしろ「いやだいやだ」の時期を楽しんで受け入れ合えるかもしれませんね。

小さなおともだち

まるで『おおきなかぶ』のお話のよう

Hさんは「ひとまねこざるの絵本」が大好きです。ある日、ひまわり学級が終わってから、Hさんと二人でプレイルームの本棚の前で大型絵本の『たこをあげるひとまねこざる』を、1ページずつ替わりばんこに音読していました。しばらくすると、AさんとAさんの治療にきた看護師さんが加わり、次にHさんのつきそいのおばあさんが、それからB君とママさんが次々にプレイルームに集まって一緒にお話を聞いて楽しんでくれました。まるで『おおきなかぶ』のお話のようにどんどん増えていって、読み終わった後は皆で「ああ、おもしろかった！」絵本の力ですね♡